湯田　哲　議員



町政を問う
一般質問

小惑星ミナミアイヅマチが命名登録
今後、どう活かしていくのか

町長＝専用の設備が無くても誘客仕組みづくりに取り組んでいく

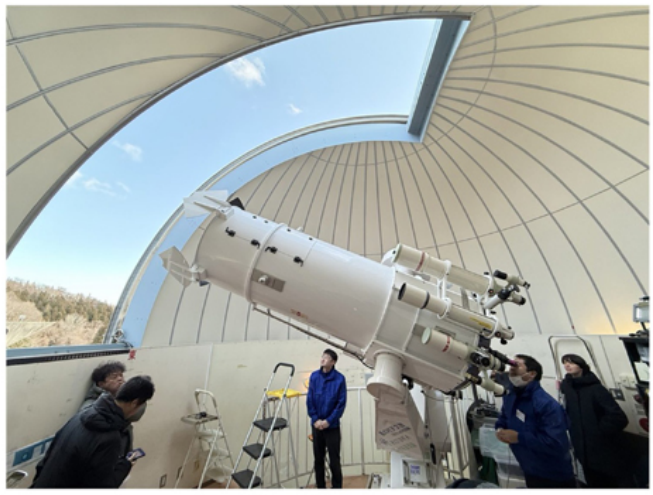
問　インターネット検索で「小惑星」、「自治体名」と入力すると真っ先に、小惑星「Minamiaizu machi」と表示され説明には「福島県、南会津町、2026年6月に登録、町内への隕石落下や星空による地域振興が評価」と表示されます。
先月には、NHK総合テレビ「所さん！事件ですよ」にて、本町の隕石落下の話題も含めた番組も全国放映されました。
小惑星ミナミアイヅマチの誕生や隕石落下など、今後どのように活かしていくのか町長の考えは。

町長　今後は、隕石捜索活動や命名登録において中心的役割を担っていただきました、南会津ほしぞらの会といった関係団体と連携し、星空観望会などをとおして、小惑星ミナミアイヅマチをPRしてまいります。
あわせて、美しい星空を観望していただくことで、来町者の増加を目指していきます

問　10年前の2016年9月議会での「本格的な天文台の建設を」の質問で、当時の町長は「地域を巻き込んだ観光誘客の仕組みづくりも必要です」と述べています。
町は今、町内外を含めた広い地域を巻き込んで少しづつ前進、実りつつあると考えます。
今こそ、小惑星ミナミアイヅマチまでも見ることができるような本格的な大型望遠鏡を備えた天文台の建設のための検討、準備を開始する時だと考えますが

町長　星の村天文台名誉台長の大野裕明氏によりますと、星の村天文台に設置されている、口径65cmの反射式望遠鏡により、小惑星ミナミアイヅマチを見ることはできないが、撮影することができると伺っております。
現時点で、同規模の天文台建設に関する検討を進める構想はありませんが、星空誘客事業を展開していく中で専門的かつ広い知識や専用の設備が無くても誘客できるような仕組みづくりに取り組んでいきます。

【その他の質問】
・地域経済循環創造事業交付金による町の活性化は
・小中学校へ3Dプリンターを導入し、創造する楽しさと感動、豊かな想像力の育成は



星の村天文台にある口径65cmの反射天体望遠鏡



【小惑星ミナミアイヅマチの現在位置】
名称：1994 VR2　　番号：46634
場所：火星と木星の間の小惑星群の仲間
明るさ：+17.8等星（かなり暗く口径1m以上の望遠鏡でないと見ることができない）
公転周期：4.06年（太陽を一周する時間）
現在位置：みずがめ座（9月23日現在）